

2013年度
(平成25年度)

事業報告書

目次

I	2013年度事業報告	
1.	国内における平和構築活動	1
2.	海外における平和構築活動	10
3.	財務体質の強化	14
II	組織	15
III	会議	19

2013年度の事業報告にあたって

2013年度は、持続可能な明るい未来を目指して国内外で複数の社会課題に向き合い、課題解決のための事業を実施することによって大きな成果がございました。これも各地ユネスコ協会や会員の皆さま、並びに私たちの取り組みに共感していただいた多くの個人や企業・団体の皆さまの温かいご理解とご支援の賜と、心より感謝申し上げます。

国内では、東日本大震災被災地の子ども達の就学の危機を救うために奨学金事業を行い、1,128人の遺児・孤児の皆さまと、1,986人の経済困難家庭の児童・生徒の皆さま、合わせて3,114人の子ども達に奨学金を給付いたしました。

また、未来を担う子ども達が学校でより質の高いESDの学びを得られるように、ユネスコスクール等への各種教材や授業等のサポートを行いました。地域の文化や自然を守る活動をしている人々を勇気づけるために、プロジェクト未来遺産では今年度も10件を登録し、仲間を広げていきました。さらに、地域で平和の文化を耕すために、全国の多くのユネスコ協会が「平和の鐘を鳴らそう!」「わたしの町のたからもの絵画展」「ユネスコ協会ESDパスポート」等の事業に積極的に取り組みました。

海外では、すべての人が読み書きを学べる社会を目指して、カンボジア（724人）、ネパール（3,756人）、アフガニスタン（1,218人）で世界寺子屋運動を実施し、合わせて5,698人が読み書きクラスに通い、約2万人の人々が寺子屋を活用しました。また、カンボジアでは世界遺産アンコールの修復事業、アフガニスタンとネパールでは、飢えや病気に苦しむ人びとを救う「一杯のスプーン事業」等を実施し、国際的課題の解決にも大きな成果をあげました。

青少年にグローバルな視野を身につける機会を提供することも、大きな社会課題です。今年度は、カナダとの高校生交流事業を実施し、200人の日本人高校生を派遣し、同じく200人のカナダ人高校生を招聘しました。また、第45回子どもキャンプには120人が集い、ユネスコらしい体験学習を行いました。

こうした多様な活動は、機関紙「ユネスコ」やホームページ、全国大会やブロック研究会を通じて会員や社会に報告し、共感の輪を広げる努力をしました。世界の平和を願い、より暮らしやすい持続可能な社会の実現に向けて、私たちは一歩、一歩、社会課題解決へ向けての努力を続けてまいります。引き続き皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

I 2013年度事業報告

1. 国内における平和構築活動

(1) 普及実践活動

① 第69回日本ユネスコ運動全国大会 in 東京

全国のユネスコ会員が一堂に会し、その年に最もふさわしいテーマについて研鑽を積み、民間ユネスコ運動のメッセージを社会に発信することを目的に、今年度は（特活）目黒ユネスコ協会、東京都ユネスコ連絡協議会とともに、東京都目黒区で開催し、約720名が参加した。東日本大震災以降、日ユ協連が最も力を注いできた教育復興と防災というESDの取り組みを振り返るとともに、震災記憶の風化への警鐘を鳴らす大会となった。また、大会では被災地の子どもたちを応援するチャリティー抽選会を行い、集まった554,000円をユネスコ協会就学支援奨学金に寄附した。

大会テーマ 「東日本大震災から2年半が過ぎて『ユネスコ活動が発信する未来に向けたメッセージ』」

プログラム 基調講話 松田昌士 日本ユネスコ協会連盟会長
パネルディスカッション「震災からの学びを明日につなげるために」
特別講演 千玄室・UNESCO親善大使
被災地報告 「ありがとう、そしてこれからの絆へ」など

日程 2013年9月14日（土）、15日（日）

会場 めぐろパーシモンホール（東京都目黒区）

主催 日本ユネスコ協会連盟、東京都ユネスコ連絡協議会、（特活）目黒ユネスコ協会

後援 外務省、文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、国際連合広報センター

② ブロック別ユネスコ活動研究会

ユネスコ協会会員の自己研鑽を図り、ユネスコ活動の情報交換や経験交流を通じて、ブロック内におけるユネスコ活動を活性化させることを目的に、下記9ブロックで研究会を開催し、約2,000人が参加した。

関東ブロック・ユネスコ活動研究会	（埼玉県越谷市）	2013年10月5～6日
東北ブロック・ユネスコ活動研究会	（新潟県新潟市）	2013年10月5～6日
北海道ブロック・ユネスコ活動研究会	（北海道帯広市）	2013年10月19～20日
中部西ブロック・ユネスコ活動研究会	（石川県金沢市）	2013年10月26～27日
四国ブロック・ユネスコ活動研究会	（香川県多度津町）	2013年11月16日
近畿ブロック・ユネスコ活動研究会	（大阪府大阪市）	2013年11月23日
九州ブロック・ユネスコ活動研究会	（宮崎県都城市）	2014年2月8～9日
中国ブロック・ユネスコ活動研究会	（広島県広島市）	2014年2月8～9日
中部東ブロック・ユネスコ活動研究会	（神奈川県鎌倉市）	2014年3月8～9日

- ③ 「平和の鐘（かね・おと）を鳴らそう！」キャンペーン・民間ユネスコ運動の日
各地ユネスコ協会が主体となって、7月19日の民間ユネスコ運動の日と8月15日
を中心に、全国各地でユネスコ活動を広く社会に伝える活動を実施した。恒例とな
った「平和の鐘（かね・おと）を鳴らそう！」は全国の協会が実施し、ユネスコ協
会就学支援奨学金への募金活動などが活発に行われた。

(2) 青少年活動

① 東日本大震災子ども支援募金

2011年3月に発生した東日本大震災からの復興3年目となる本年度、引き続き多くの
企業、団体、個人のご協力を得て、以下の活動を行った。

A) ユネスコ協会就学支援奨学金

経済状況が著しく悪化した家庭の子どもに、原則として月額2万円を3年間給付
するもので、岩手県陸前高田市、釜石市、大槌町、宮古市、山田町、宮城県気仙沼
市、石巻市、仙台市、東松島市、名取市、南三陸町、女川町、山元町、福島県南相
馬市、相馬市の計15自治体で行い、合計1,986人の児童・生徒に奨学金を給付した。

B) MUFJ-ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

三菱UFJフィナンシャル・グループとの協働により、2011年4月に「MUFJ・ユネ
スコ協会 東日本大震災復興育英基金」を設立した。本基金は、震災により遺児・孤
児となった子どもたちを対象に、小学校入学時から高校卒業時まで奨学金（開始時
に一時金10万円、月額2万円）の給付を行うもので2013年度は、遺児・孤児1,128
名に給付した。また、奨学金の他にも、心豊かな成長プログラム、花壇再生プログ
ラム、ボランティア活動プログラムを継続実施した。

C) 力士会支援

白鵬関を長とする力士会の全力士が、津波で破壊された宮城県気仙沼市の相撲場
の再建をめざして場所毎に2万円の募金をし、その資金をもとに新相撲場の建設に
着手した。

D) 企業マッチング支援

企業の協力を得て、被災地へ音楽を通じた教育支援や被災から再建した保育園と
地域への食育推進のためのニコニコ畑の再生支援、園児たちとのふれあい交流事業
などを通じてコミュニティの再生を支援した。

E) 「東日本大震災 教育復興支援レポート」

上記A)～D)の活動の成果をまとめ、募金者や協力企業・団体に謝意を込めて活動
報告を行った。

② 青少年活動支援（子ども募金）

A) 「ユネスコ協会ESDパスポート」事業

ユネスコスクールが取り組んでいる「持続可能な開発のための教育（ESD）」の教育効果を高めるため、ユネスコ協会が児童・生徒に地域のボランティア活動への参加を促進する事業を新規に開始した。ESD パスポートを持った子どもたちが地域の課題解決のために行動するボランティアの機会を提供し、将来的にグローバル人材の育成を図る。初年度である本年度は全国で12 ユネスコ協会・クラブが地域の学校やユネスコスクールに働きかけて実施した。

初年度パイロット事業実施協会・クラブ：

室蘭ユネスコ協会、千葉ユネスコ協会、新宿ユネスコ協会、環境維新隊東京ユネスコクラブ、鎌倉ユネスコ協会、富山ユネスコ協会、氷見ユネスコ協会、エリーニ・ユネスコ協会、箕面ユネスコ協会、岡山ユネスコ協会、岩国ユネスコ協会、沖縄県ユネスコ協会

B) 青少年ユネスコ活動助成

1. ユネスコ協会が企画する青少年育成や、「わたしの町のたからもの」絵画展等の学校（ユネスコスクール）との連携を強化する事業を公募し、審査会を経て50件に対し助成を行った。

助成ユネスコ協会：

札幌ユネスコ協会、水沢ユネスコ協会、福島ユネスコ協会、北茨城ユネスコ協会、ひたちなかユネスコ協会、日立ユネスコ協会、土浦ユネスコ協会、寄居地方ユネスコ協会、草加ユネスコ協会、柏ユネスコ協会、四街道市ユネスコ協会、宇都宮ユネスコ協会、鎌倉ユネスコ協会、静岡ユネスコ協会、沼津ユネスコ協会、富山ユネスコ協会、石川県白山ユネスコクラブ、川西ユネスコ協会、長浜ユネスコ協会、紀南ユネスコ協会、奈良ユネスコ協会、天理ユネスコ協会、宝塚ユネスコ協会、山口ユネスコ協会、下関ユネスコ協会、因島ユネスコ協会、徳島ユネスコ協会、久留米ユネスコ協会、熊本ユネスコ協会、日光ユネスコ協会、石狩ユネスコ協会、秩父ユネスコ協会、杉並ユネスコ協会、茨城県西地ユネスコ協会方、目黒ユネスコ協会、厚木ユネスコ協会、ウィズみえユネスコクラブ、岐阜県ユネスコ協会、佐賀ユネスコ協会、全国的青年連絡組織、北海道ユネスコ連絡協議会、岩手県ユネスコ協会連盟、新潟市ユネスコ協会、渋谷ユネスコ協会、玉川大学ユネスコクラブ、市川市ユネスコ協会、千葉県ユネスコ協会連絡協議会、彦根ユネスコ協会、大分県ユネスコ協会連盟、東京都ユネスコ連絡協議会

2. 第45回ユネスコ子どもキャンプ in 東京

1969年に第1回キャンプを実施して以来、今年度で45回目を迎えた。小学4年生から中学3年生までの参加者61名（内、東京都内ユネスコスクールから15名）と青年スタッフ約60名が東京都奥多摩に参集し、自然体験活動を通じたプログラムの中でユネスコ活動の学習と理解を深めた。キャンプ中、東日本大震災の被災地に贈る「光るエコ消しゴム」を作り、釜石市立釜石東中学校に届けた。

日時 2013年8月3～6日

場所 東京都奥多摩

主催 日本ユネスコ協会連盟、東京都ユネスコ協会協議会

協賛：カルピス株式会社、株式会社ショウエイ、株式会社榮太樓總本舗

C) 青少年活動支援のための事業実施

青少年を東日本大震災の被災地に派遣する事業を実施するための募金活動を行った。

D) ユネスコ寺子屋プロジェクト

2004年に始まり、今年度10年目を迎えた。全国の35校で2,342名の児童/生徒が「ユネスコ世界寺子屋運動」について学び、コンピューターを活用して、書きそんじハガキキャンペーンを支援するためのリーフレット制作に取り組んだ。子どもたちが制作した作品は、各学校で2点に絞られ、全国の作品を集めてリーフレットコンテストを実施した。本年度は、奈良教育大学附属中学校の南島奈々さんの作品が最優秀賞である「日本ユネスコ協会連盟賞」に選ばれ、2014年度書きそんじハガキキャンペーン用のリーフレットの素案として採用された。

E) 「KAKEHASHI Project-The Bridge for Tomorrow-カナダとの高校生交流事業（招聘と派遣）」

日本経済の再生に向けて、我が国への潜在的な関心を増進させ、日本を訪れる外国人の増加を図ると共に、クールジャパンを含めた日本の強みや魅力等の日本ブランド、日本的な「価値」への国際理解を増進させることを目指す外務省拠出プロジェクト「KAKEHASHI Project -The Bridge for Tomorrow-カナダとの高校生交流事業（招聘と派遣）」を受託。カナダ4地域から25人8グループ、計200人を招聘すると共に、日本からも8グループ200人をカナダに派遣し、ホームステイや学校訪問、国内の企業や世界遺産地域の訪問を通じてお互いの社会、文化などを学び、生徒間の交流を深めた。交流事業では奈良ユネスコ協会青年部、岩国ユネスコ協会、水戸ユネスコ協会、茨城県西地方ユネスコ協会の協力を得た。

<招聘>

1. 2013年5月8～17日、ブリティッシュコロンビア州ニュー・ウェスト・ミンスター高校、生徒23名と教員2名
2. 2013年5月21～30日、アルバータ州ボール・ケイン高校、生徒22名と教員3名
3. 2013年5月21～30日、アルバータ州ジョージ・マクドゥーガル高校、生徒23名と教員2名
4. 2013年9月19～28日、オンタリオ州センテニアル高校、生徒23名と教員2名
5. 2013年10月20～29日、オンタリオ州リバーデール高校、生徒23名と教員2名
6. 2013年11月21～30日、ブリティッシュコロンビア州シアコム高校、生徒23名と教員2名
7. 2014年2月8日～17日、ケベック州コレージュ・フランセ・ロングイユ校、生徒23名と教員2名
8. 2014年3月9日～18日、ケベック州エコール・スゴンデール・ドゥ・ロシュベル校、生徒23名と教員3名（同校校長は自費参加）

<派遣>

1. 2013年10月7～18日、大阪府高石市・羽衣学園高等学校(ユネスコスクール)、生徒23名と教員2名
2. 2014年1月2日～13日、大阪府堺市・帝塚山学院泉ヶ丘高等学校(ユネスコスクール)、生徒23名と教員2名
3. 2014年1月2日～13日、岩国合同(高水高等学校、県立岩国高等学校、山口県立岩国商業高等学校、山口県立高森高等学校)、生徒22名と教員3名
4. 2014年1月4日～15日、京都府立嵯峨野高等学校及び札幌合同(北海道立札幌東高等学校、北海道立札幌西高等学校)、生徒23名と教員各グループ2名
5. 2014年2月6日～17日、奈良女子大学附属中等教育学校、生徒23名と教員2名
6. 2014年3月16日～27日、茨城県立緑岡高等学校、生徒23名と教員2名
7. 2014年3月16日～27日、茨城県立下館第一高等学校、生徒23名と教員2名

③「守ろう地球のたからもの」(通年) 持続発展教育(ESD)の推進を目的に以下の事業を行った。

A) ESD教材の寄贈

三菱UFJフィナンシャル・グループとESD教材を学校に寄贈する協働事業を行った。教材は、「豊かな自然編」と「豊かな世界遺産編」の2冊。2013年8月25日に教材の普及を目的とした教員研修会を開催し、79名が参加した。また、ESD絵本『サクラソウのひみつ』を公立図書館等に寄贈した。

B) 世界遺産「白神山地」周辺地域での育樹活動

2008年～2012年の5年間に植樹した10万本の苗木の育樹活動を行った。2013年6月29-30日、7月13-14日の2回、三菱UFJフィナンシャル・グループ社員75名が植樹作業にボランティア参加した。

C) 第38回「みどりの絵コンクール」

三菱UFJ環境財団の「みどりの絵コンクール」を共催した。応募総数28,365点の中から、最優秀賞9名、優秀賞36名、入選409名を選考し、2013年12月7日、東京都千代田区で最優秀賞の表彰式を実施した。

D) ユネスコスクールへの支援

三菱東京UFJ銀行とユネスコスクール支援を支援する以下の3つの協働事業を行った。

1. ユネスコスクール新規登録校へのプレート寄贈で、地元ユネスコ協会の協力を得て97校に寄贈した。
2. ユネスコスクール高校生を対象とした「ESD国際交流事業」。今年度は2014年3月22日から29日までユネスコスクールの高校生14名と教員1名をドイツ及びフランスのユネスコスクール及びUNESCOパリ本部に派遣した。
3. ユネスコスクールのESD学習を支援する「ESDアシストプロジェクト」。今年度は、全国113校に総額10,775,752円の助成を行った。

③ 第11期三菱アジア子供絵日記フェスタの共催（通年）

1990年の国際識字年を記念して、アジアの子どもたちの相互理解を深めることを目的に開始した三菱広報委員会との協働事業。今年度は第11期の表彰式を実施した。11期にアジア24の国・地域から応募された作品総数は70,899作品。2013年7月31日～8月4日、全受賞者を神戸市に招待し、授賞式を行った。海外の受賞者は日本の受賞者と一緒に日本文化を体験し、国際交流を深めた。

主催 三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟（AFUCA）、
日本ユネスコ協会連盟

④ MSDサイエンススクール

MSD株式会社と、「いのちと健康」をテーマに小学校6年生を対象にした「サイエンススクール」出前授業を協働で実施した。本年度は、全国16校で授業を行い、792人の子どもたちが、身体のメカニズム、薬の発見、科学者たちのルール、軟膏づくりを体験し、生命や科学への興味をもつきっかけを得た。

実施16校（実施順）：福岡市立玉川小学校、福岡市立有住小学校、私立椛山女学園大学附属小学校、私立国本小学校、気仙沼市立白山小学校、気仙沼市立小泉小学校、釜石市立唐丹小学校、品川区立台場小学校、大阪市立関目東小学校、大阪市立高殿小学校、名古屋市立笹島小学校、青森県平川市立礎ヶ関小学校、熊谷市立長井小学校、市川市立稲越小学校、港区立神応小学校、千代田区立九段小学校

協力ユネスコ協会：名古屋ユネスコ協会、エリーニ・ユネスコ協会、市川市ユネスコ協会、千代田ユネスコ協会、気仙沼ユネスコ協会、釜石ユネスコ協会

⑤ ボランティア・スタディーツアー

HIS等の主催によるカンボジア・ボランティア・スタディーツアーに企画協力した。ツアーは3回催行され、延べ25人が参加した。プログラムでは、シエムリアップ州の寺子屋のある村や世界遺産の修復現場を訪問し、カンボジアの歴史や文化や現状について学んだ。

出発日 2013年9月17日、11月19日、2014年3月8日

⑥ 『ユネスコスクール10の質問・事例・資料集』の発行

UNESCOが進める「持続可能な開発のための教育(ESD)」とユネスコスクールについて可能な限り分かりやすく説明し、ESDがもたらしたユネスコ活動の枠組みの拡大とその意義について情報を共有することを目的に制作し、全国のユネスコ協会、並びに関係団体に配布した。

⑦ 第5回ユネスコスクール全国大会の共催

NPO法人日本持続発展教育(ESD)推進フォーラムが開催する第5回ユネスコスクール全国大会を名義共催した。

日時 2013年12月1日

主催 文部科学省 日本ユネスコ国内委員会

共催 NPO法人日本持続発展教育(ESD)推進フォーラム、日本ユネスコ協会連盟ほか

(3) 組織の拡大とユネスコ活動の充実

ユネスコ活動の普及促進活動により5つのユネスコ協会が新設された。

<新設ユネスコ協会>

学び舎江戸東京ユネスコクラブ、新宿ユネスコクラブ

2013年5月25日第488回理事会承認

屋久島ユネスコ協会

2013年6月22日第489回理事会承認

ユネスコクラブ日本ライン

2013年9月14日第491回理事会承認

日本伝統文化保存継承の会・舞音の守ユネスコクラブ（通称：舞音の守ユネスコクラブ）

2014年3月15日第494回理事会承認

(4) 世界遺産・地域遺産活動

① 未来遺産運動（通年）

地域の文化・自然遺産を100年後の子どもたちに伝えるために、次の事業を行った。

A) プロジェクト未来遺産第5回プロジェクト未来遺産を公募し、39団体の応募を得た。西村幸夫東京大学副学長を委員長とする未来遺産委員会を設置し、各分野の専門家による書類選考を経て、現地調査を行った。12月9日に未来遺産委員会を開催し、2013年度第5回「プロジェクト未来遺産」として10団体を選考し、登録を決定した。登録証伝達式は2014年1月より各地で実施した。

特別協力企業：東日本旅客鉄道株式会社、レクサス

2013年度第5回「プロジェクト未来遺産2013」(※プロジェクト名/団体名/市町村)

- 1 佐野天明（命）鋳物のすぐれた伝統文化を未来につなぐ活動/天命鋳物伝承保存会/栃木県佐野市
- 2 世界で一つだけの「元荒川ムサシトミヨ生息地」保護活動/熊谷市ムサシトミヨを守る会/埼玉県熊谷市
- 3 ドブ川化した川を市民力を結集して蛍が乱舞する清流に再生・復活/特定非営利活動法人グラウンドワーク三島/静岡県三島市
- 4 湖国の原風景権座水郷を守り育てる活動（日本の里百選）選定地域/権座・水郷を守り育てる会/滋賀県近江八幡市
- 5 英田上山棚田再生プロジェクト～未来へつなぐ棚田8300枚～/NPO法人英田上山棚田団/岡山県美作市
- 6 まちにあかりを灯すプロジェクト/NPO法人倉敷町家トラスト/岡山県倉敷市
- 7 榎野川もり・かわ・うみを再生し人と人をつなぐプロジェクト/榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会/山口県山口市
- 8 萩のおたからにみんなで親しみ、みんなに広めるプロジェクト/NPO萩まちじゅう博物館/山口県萩市
- 9 世界に伝えたい!!阿波人形浄瑠璃の魅力未来遺産プロジェクト/阿波人形浄瑠璃平成座/徳島県徳島市
- 10 博多湾・和白干潟の自然保護活動/和白干潟を守る会/福岡県福岡市

B) 私のまちのたからものコンテスト（スライドショー）

全国の小・中・高等学校を対象に、児童・生徒の郷土愛を育むことを目的とし、デジタル写真にナレーションや音楽をつけたスライドショー作品の第 5 回コンテストを実施した。審査会によって、応募作品総数 88 作品の中から受賞作品 3 点を選出し、2014 年 3 月 27 日に東京都渋谷区にて表彰式を行った。

事業協力：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

1 日本ユネスコ協会連盟賞（最優秀賞）

北海道札幌平岸高等学校 1 年 2 名 『ニシンのまちに受け継がれてきたもの』

2 D-project 賞（優秀賞）

沖縄県金武町立中川小学校 4, 5 年 5 名 『マングローブ林を守ろう』

3 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社賞（優秀賞）

信州大学教育学部附属松本中学校 2 年 5 名 『「水の都」松本』

② 世界遺産年報の発行

富士山が世界遺産に登録されたのを記念し「特集：富士山－信仰の対象と芸術の源泉」を組んだ『世界遺産年報 2014 No. 19』を発行した。一般財団法人日本宝くじ協会の一部助成を得て、国公立図書館、大学附属図書館、教育委員会等、約 11, 000 団体に寄贈した。

③ 植樹プロジェクト（青森県）

2013 年 9 月、世界遺産「白神山地」周辺地域の西目屋村にて植樹活動を行った。

(5) 海外との連携

- ① アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟 (AFUCA) の活動振興 (通年)
 - A) 2013年7月13～15日に中国・北京にて開催された“2013 Asia-Europe Forum on School Ethics Education Challenges in Ethics Education: Are Teachers Ready - Responsibilities Approaches and Effects (1st)”にキーノートスピーカーとして野口昇理事長が出席した。
 - B) 2013年7月13～15日に韓国・ソウルにて開催された“Nongovernmental Perspective on the UNESCO Heritages: Industrial Development and Its Impacts on Culture” Seminar and Youth Session”に横田創理事他、松山ユネスコ協会青年3人が参加した。
 - C) 2013年8月19～23日にカザフスタン・アスターナで International Conference “Global Ethics: Save the Planet Earth” が開催され、野口昇理事長がキーノートスピーチを行った。アスターナ宣言が採択された。
- ② 世界ユネスコ協会クラブ連盟 (WFUCA) への協力 (通年)

WFUCA が実施するユネスコ活動への振興に協力した。
- ③ UNESCOとの連携
 - A) 2012年2月に UNESCO と締結した日本国内での資金調達に関する協力協定に基づき、全日本空輸株式会社 (ANA) が最初の「UNESCO 公式サポーター」企業となった。
 - B) UNESCO 芸術賞基金の管理運営、及び UNESCO パリ本部と連絡業務を行った。
 - C) 「UNESCO 東アジア子ども 芸術祭」は、本年度は休止となった。
 - D) 「こころに笑顔プロジェクト」

UNESCO から宮城県気仙沼市での教育復興事業「こころに笑顔プロジェクト」を受託し、実施した。気仙沼市教育委員会の ESD ワークショップや学校での震災体験共有のための冊子制作、市民による座談会の冊子制作、宮城教育大学を通じた被災地の子どもたちへの学習支援活動などを行った。

(6) 普及広報活動

民間ユネスコ活動の普及・広報を目的として以下の活動を行った。

① 機関誌「ユネスコ」の発行

会員機関誌「ユネスコ」を以下の通り発行し、会員間の情報交流を促進した。

機関誌「ユネスコ2013年 4月号 vol. 1140」	2013年4月1日発行
機関誌「ユネスコ2013年 7月号 vol. 1141」	2013年7月1日発行
機関誌「ユネスコ2013年10月号 vol. 1142」	2013年10月1日発行
機関誌「ユネスコ 2014年 1月号 vol. 1143」	2014年 1月 1日発行

② 日本ユネスコ協会連盟概要ブックレットの制作・配布

ユネスコ活動への賛同者を増やすために、募金や寄附に関する情報を分かりやすく伝えるパンフレット等を制作し、配布した。

③ 日本ユネスコ協会連盟ホームページの更新・管理運営

民間ユネスコ活動を広報する「活動ニュース」、「スタッフブログ」、「会員ページ」、「トピックス」など最新情報を随時更新した。フェイスブックの登録数は1,855名(2014年3月31日現在)に伸びた。

④ メールマガジン、リリース等による情報発信

メールマガジン登録者約7,000人に対し、通巻183号～195号を発行した。また、各事業の実施に当たり、広く世間に周知を図るため、必要に応じてマスコミへのリリース配信を行った。

⑤ 広報特使との協働

二村英仁(UNESCOアーティストフォーピース)、横綱白鵬関(UNESCOスポーツチャンピオン)、東儀秀樹(日本ユネスコ協会連盟スペシャルアドバイザー)、久保純子(日本ユネスコ協会連盟広報特使まなびゲーター)、わさお(日本ユネスコ協会連盟世界遺産活動特別大使犬)の各氏の協力を得て、東日本大震災子ども支援への募金活動などユネスコ運動について広報協力いただいた。

⑥ 広報媒体の制作と活用

タクシーちゃんねる株式会社の広報協力により、未来遺産運動、東日本大震災子ども支援募金、書きそんじハガキ回収の呼びかけ等、複数のコマーシャルを制作して都内約3,000台のタクシー内に設置されたビジョンで放映した。また、読売新聞(2014年3月11日)紙上に「東日本大震災子ども支援募金 ユネスコ協会就学支援奨学金」への募金協力を呼びかける新聞広告を掲載した。

⑦ 都市対抗野球大会

2013年7月23日に東京ドームで開催された第84回都市対抗野球大会で優勝したJX-ENEOSに、スポーツを通じて平和のメッセージを発信する目的で、日本ユネスコ協会連盟賞を授与した。

2. 海外における平和構築活動

(1) 世界寺子屋支援活動（通年）

“すべての人に教育を（EFA）”の目標達成のため、誰もが基本的人権としての基礎教育を受けられ、持続可能な地域の発展と平和な社会づくりに参画できる世界を目指し、開発途上国の中で学校へ行けない人びとに対して、世界寺子屋運動を通じた教育支援活動を継続実施した。世界寺子屋運動広報特使・久保純子氏や株式会社電通の協力を得て、国内の募金広報活動を積極的に行った。アジア各国での実施事業は、次の通りである。

① カンボジア（アンコール寺子屋プロジェクト）

シエムリアップ州の中心地にある日ユ協連カンボジア事務所を拠点に州内9地域の寺子屋で識字教育、中途退学した子どもたちへの復学クラスや収入向上活動を行い、新たに2軒の寺子屋を建設した。約720人に学びの機会を提供した。

② アフガニスタン（アフガニスタン寺子屋プロジェクト）

日ユ協連カブール事務所を拠点とし、アフガニスタン教育省識字局と連携して、カブール県、パルワン県、バーミヤン県に設置された13地域の寺子屋を通じて、主に成人を対象とした識字教育・技術訓練、収入向上事業を実施した。またカブール市13地区で新しい寺子屋を建設した。約1,210人に学びの機会を提供した。

バーミヤン州では、2つの寺子屋を拠点に活動を展開中

③ ネパール（ネパール寺子屋プロジェクト）

世界遺産「ルンビニ」周辺の12地域とカトマンズ近郊の4地域の16の寺子屋を通じて識字教育・小学校クラス、技術訓練、収入向上事業を実施した。約3,750人に学びの機会を提供した。

④ アフガニスタン難民子ども支援募金

アフガニスタン難民子ども支援として、カブール市内郊外の国内避難民キャンプ3ヶ所で冬季を子どもが無事に過ごすための栄養補助（途中で1カ所、2カ所で女性のための識字を行った）。

協力：認定NPO法人ジャパンプラットフォーム

また、昨年度に引き続き、世界寺子屋運動の促進を図った。

① NHK「日本賞・日本ユネスコ協会連盟賞」の授与

NHK主催の「日本賞」教育番組国際コンクールで、途上国の識字教育を促進する優れた番組企画（バングラデシュのドゥルーパッド・コミュニケーションの『光あれ』）に対し、「日本ユネスコ協会連盟賞」を授与した。

② 世界寺子屋運動の新たな展開に向けて調査を行い、教育支援活動に関心のある企業や団体に協力を求める活動を行った。

(2) 「一杯のスプーン」支援活動（通年）

① 世界寺子屋運動の支援先と連動させて、貧しい人々のための無料医療診療、安全な水の提供などの活動を支援した。

A) ネパール

世界寺子屋運動の支援地ルンビニの12村において、3ヶ月に1回、巡回医療活動および栄養補助、食品配布を行った。

B) アフガニスタン

カブール市内の JIFF クリニックが実施する医療活動への支援を行い、年間 8 万 6 千人以上が利用した。またカブール市内の世界寺子屋運動実施地域に向け、巡回クリニックを実施した。

C) カンボジア

シエムリアップ州立病院、寺子屋11軒、郡立病院3軒など日本からにペットボトル（500ml）を26万本届け、病人や子どもたちに安全な水を提供した。浄水設備や衛生教育に関する教材を作成していく。

協力：株式会社富山環境整備

② 一杯のスプーン促進事業

企業や団体に協力を求める活動を行った。

(3) 海外への緊急支援

2013 年 11 月 8 日にフィリピンを襲った史上最強の台風 30 号によって被災した地域で活動する聖心会（The Society of Sacred Heart）を通して、被災した子どもたちを支援した。

(4) 世界遺産・地域遺産活動（通年）

① アジア2カ国での事業実施

A) カンボジアの世界遺産「アンコール」（アンコール・文化教育プロジェクト）

カンボジア NGO（JST）と協力し、世界遺産「アンコール」のひとつであるバイヨン寺院のナーガ像やシンハ像の修復活動を支援した。

② 世界遺産・地域遺産活動促進事業

世界遺産条約の趣旨を正確に広報するため、ホームページの世界遺産情報更新や世界遺産年報の発行などの広報活動を行った。

3. 財務体質の強化

民間ユネスコ運動の健全な発展を図るためには、事業構造・財務体質の不断の改善が不可欠である。事業財務改善3ヵ年計画の2年目である本年度は、事業資金の獲得を目指し、会長の下に委員会等を設置し、内外から幅広い意見と提案を聞いた。事業資金の拡大その他については、以下の諸措置を講じた。

(1) 募金促進

① 書きそんじハガキ回収キャンペーン（2013年11月～2014年3月）

今年度のキャンペーンには、過去最多となる162 ユネスコ協会が参加した。参加ユネスコ協会向けに回収事例や寺子屋の情報などをまとめたマニュアルを作成、デザインを刷新したハガキ回収グッズと共に配布した。株式会社電通の協力により新キャラクター「書きそんじロー」が仲間に加わり、フェイスブックやグッズで活躍した。フェイスブックでもキャンペーンを展開し、1,279人が「いいね」をクリック、1,697人が情報をシェア（共有）した。キャンペーン期間中に約1,991万円分の未使用切手とハガキが集まった。

② 「月1いいことプログラム」拡大キャンペーン

インターネット上で「月1いいことプログラム」への呼びかけを行った。

③ 募金者への報告と支援要請の実施

大口募金者の方々に支援先の現状や事業進捗、現地からのメッセージを伝え、ユネスコ運動への継続した支援と募金をさらにお願した。

④ 「2012年度活動報告レポート」

世界寺子屋運動、一杯のスプーン支援活動、世界遺産・地域遺産活動、東日本大震災子ども支援募金等の活動報告を中心とした報告書を作成し、協力者に送付した。

(2) 企業協力促進

① 日本ユネスコ協会連盟の名称やロゴ、各事業の素材（写真等）を用いて、企業にご協力いただく仕組みを企画し、富士山世界遺産登録に関連して複数の企業との協働事業を構築した。

② 東日本大震災子ども支援募金に大口のご寄附をいただいた企業・寄付者のもとへ役職員が訪問し、御礼を述べた。

(3) 健全な財務の維持向上と効率的な民間ユネスコ運動の展開

事業財務改善3ヵ年計画の達成するため、女性未来委員会、財務戦略委員会、青少年・ボランティア委員会、ユネスコスクール部会、ガバナンスとコンプライアンスのためのワーキングチームを設置した。委員会等からの提言を2014年度事業計画書・予算書に反映させ、第494回理事会にて承認した。

Ⅱ 組織

1. 理事（28）（五十音順）（* 代表理事）

会長	松田 昌士*	東日本旅客鉄道株式会社顧問)	非常勤<維持>
副会長	加藤 玲子	特定非営利活動法人目黒ユネスコ協会名誉会長	非常勤<個人>
理事長	野口 昇 *	文京学院大学名誉教授	非常勤<会推>
専務理事	内田 眞朗*	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟事務局長	常勤 <個人>
理事	安達 仁美	長野ユネスコ協会青年会員	非常勤<青年>
理事	太田原 弘	盛岡ユネスコ協会会長	非常勤<構成>
理事	大津 和子	北海道ユネスコ連絡協議会会長	非常勤<会推>
理事	石井 清	柏ユネスコ協会会長	非常勤<構成>
理事	岡田 茂	日本ユネスコ協会連盟元事務局長	非常勤<個人>
理事	坂口 一美	箕面ユネスコ協会会長	非常勤<会推>
理事	荘司 幸子	伊丹ユネスコ協会会長	非常勤<構成>
理事	鈴木 佑司	法政大学教授	非常勤<個人>
理事	田中 弘允	鹿児島ユネスコ協会会長	非常勤<構成>
理事	中村 優子	株式会社電通総務局社会貢献・環境推進部長	非常勤<維持>
理事	二瓶 和敏	二瓶総合法律事務所弁護士	非常勤<個人>
理事	野島 嘉之	三菱商事株式会社環境・CSR 推進部部長	非常勤<維持>
理事	野田 智義	特定非営利活動法人アイ・エス・エル理事長	非常勤<会推>
理事	野本 武男	松山ユネスコ協会会長	非常勤<構成>
理事	林 美紀子	杉並ユネスコ協会顧問	非常勤<構成>
理事	引地 瑠美子	白石ユネスコ協会会長	非常勤<会推>
理事	平田 正之	株式会社情報通信総合研究所相談役	非常勤<会推>
理事	間瀬 雅晴	一般社団法人日本の伝統を守る会理事	非常勤<賛助>
理事	松波 孝之	富山ユネスコ協会会長	非常勤<構成>
理事	森井 曠雄	鎌倉ユネスコ協会理事長	非常勤<構成>
理事	横田 創	松山ユネスコ協会青年代表	非常勤<青年>
理事	横山 清	札幌ユネスコ協会会長	非常勤<構成>
理事	米田 伸次	帝京大学沖永国際教育研究所客員教授	非常勤<個人>
理事	脇 正典	防府ユネスコ協会会長	非常勤<構成>

(注) <構成>：構成団体会員代表、<賛助>：賛助団体会員代表、<個人>：個人会員代表、
<維持>：維持会員代表、<青年>：青年代表、<会推>：会長推薦

2. 監事（2）

監事	樋口 達夫	大塚ホールディングス株式会社代表取締役社長兼 CEO	非常勤
監事	松代 隆子	財団法人吉田秀雄記念事業財団専務理事	非常勤

3. 顧問 (10)

尾花珠樹	糟谷勝一	児島 仁	千 宗室	西村幸夫
濱中昭一郎	福原義春	松浦晃一郎	村井 了	村田昌志

4. 評議員数

会員種別	2012年度-2013年度	定員
構成団体会員 (うち青年代表)	86人 (4人)	100人以内 9人以内
国内委員会委員	9人	9人以内
賛助団体会員	4人	5人以内
個人会員	30人	30人以内
維持会員	15人	15人以内
計	144人	150人以内

5. 会員数

会員種別	2012年度末	減	増	2013年度末
構成団体会員	283	5	5	283
賛助団体会員	18	0	1	19
個人・終身個人会員	294	37	21	278
維持会員	156	15	1	142
計	751			722

6. 会員の異動

構成団体会員

<入会> 5

学び舎江戸東京ユネスコクラブ、新宿ユネスコクラブ 2013年5月25日第488回理事会承認
屋久島ユネスコ協会 2013年6月22日第489回理事会承認
ユネスコクラブ日本ライン 2013年9月14日第491回理事会承認
日本伝統文化保存継承の会・舞音の守ユネスコクラブ (通称：舞音の守ユネスコクラブ)
2014年3月15日第494回理事会承認

<退会> 5

佐倉ユネスコ協会、白石ユネスコ協会青年部、中央区ユネスコ協会、ユネスコ砺波青年部
2013年5月25日第488回理事会承認
東金ユネスコ協会 2014年1月18日第493回理事会承認

賛助団体会員

<入会> 1

一般社団法人 日本文化交流基金 2013年5月25日第488回理事会承認

個人会員

＜入会＞ 21

小出寛治 2013年5月25日第488回理事会承認
石田喬也、宇佐見恵子、大津和子、川上千春、坂口一美、濱松敏廣、日向治子、
ファイン荒井千香子、横須賀満夫 2013年6月22日第489回理事会承認
伊勢悦子、桜井えつ、澤田順子、松本啓三、八木貴美、山本滝子
2013年9月14日第491回理事会承認
大浦京子 2013年11月9日第492回理事会承認
木曾 功、何 暁磊 2014年1月18日第493回理事会承認
菅原由香子、数納 壽 2014年3月15日第494回理事会承認

＜退会＞ 37

井上正広、上杉貞夫、下平晴朗、滝沢三郎、前田美保、村井暁子、山崎 薫、山崎康正、
吉村公雄、渡辺和俊、和田智子 2013年5月25日第488回理事会承認
飯田君子、田川 清 2013年6月22日第489回理事会承認
市川忠司、伊藤延男、太田照雄、東海林敬子、森永春乃、山本卓眞、吉田陽三、
米田謙三 2013年9月14日第491回理事会承認
阿賀せつ子、高橋啓子、三宅正勝 2013年11月9日第492回理事会承認
村上高明 2014年1月18日第493回理事会承認
大瀧太市、鈴木幹夫、田賀秀一、潮木守一、加川ムーサ、高祖敏明、土栄静雄、
中村文雄、榎野文子、宮内盈義、吉川長太 2014年3月15日第494回理事会承認
登録修正1名

維持会員

＜入会＞ 1

株式会社ショウエイ 2013年5月25日第488回理事会承認

＜退会＞ 15

リオティント ジャパン株式会社、株式会社アイナック、株式会社エス・エー・ピー
2013年5月25日第488回理事会承認
楽天株式会社、TBCグループ株式会社、伊藤組土建株式会社、明治製菓株式会社、
メリルリンチ日本証券株式会社、ランビエンテ修復芸術学院
2013年6月22日第489回理事会承認
株式会社総合設備コンサルタント、株式会社清水銀行、株式会社DTS、日本土地建物販売株式会社
2013年9月14日第491回理事会承認
株式会社NTTファシリティーズ、ライオン株式会社
2014年3月15日第494回理事会承認

7. 地域的なユネスコ活動の領域を代表する日本ユネスコ国内委員会委員 (2014年3月31日現在)

北海道	大津 和子	(北海道ユネスコ連絡協議会会長)
東北		
関東・甲信越	宇佐見 恵子	(水戸ユネスコ協会会長)
	井原 正登	(特定非営利活動法人木曾ユネスコ協会会長)
中部	金原 祥子	(名古屋ユネスコ協会理事長)
近畿	堀川 一晃	(エリーニ・ユネスコ協会会長)
中国	岡崎 天隆	(岩国ユネスコ協会会長)
四国	青野 正	(新居浜ユネスコ協会会長)
九州	東 良和	(沖縄県ユネスコ協会副会長)
全国的連合組織	西村 幸夫	(日本ユネスコ協会連盟理事、東京大学副学長)
全国的連合組織	二瓶 和敏	(日本ユネスコ協会連盟理事、弁護士)
全国的連合組織	見上 一幸	(宮城教育大学副学長)

Ⅲ 会 議

1. 総会

第64回定時総会

日 時 2013年6月22日(土) 14:30～16:30

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階(A室)

議 長 会長 松田昌士

議決権を有する社員の総数 738名

総議決権数 738個

本日の出席社員数 433名(議決権行使書提出者を含む)

本日出席の社員が有する議決権数 433個

【決議事項】

第1号議案 2012年度事業報告書(案)および計算書類等(案)について

第2号議案 理事、監事及び評議員の選出について

第3号議案 役員報酬規程について

【報告事項】

1 2013年度事業計画書および予算書 緑表紙の小冊子

2 その他

2. 理事会

第488回理事会

日 時 2012年5月25日(土) 13:15～15:00

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階(B室)

議 長 会長 松田 昌士

出席者 21名(理事総数28名)

議 題

I. 第487回理事会議事要録の確認

II. 協議事項

1. 会員の入退会1

2. 民間ユネスコ運動の今後の発展に向けて

3. 2012年度事業報告書(案)および2012年度計算書類等(案)について

4. 第64回定時総会について

5. その他

III. 報告事項

1. 2013年1月から5月までの事業報告および今後の日程(案)

2. 後援・共催事業

3. その他

第489回理事会

日 時 2013年6月22日(土) 13:15~14:00
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階(B室)
議 長 会長 松田 昌士
出席者 21名 (理事総数28名)
議 題

- I. 第488回理事会議事要録の承認
- II. 協議事項
 1. 会員の入退会
 2. 選考委員会の設置について
 3. その他
- III. 報告事項
 1. 2013年度6月の事業報告および今後の日程(案)
 2. 後援・共催事業
 3. その他

第490回理事会

日 時 2013年6月22日(土) 16:45~17:45
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階(B室)
議 長 会長 松田 昌士
出席者 27名 (理事総数29名)
議 題

- I. 協議事項
 1. 代表理事会長の選任について
 2. 副会長、理事長、専務理事、代表理事の選任について
 3. 委員会等の設置について
 4. その他
- II. 報告事項
 1. 理事の役割について

第491回理事会

日 時 2013年9月14日(土) 11:00~12:00
場 所 東京都・目黒区心身障害者センター あいアイ館1階会議室
議 長 会長 松田 昌士
出席者 26名 (理事総数29名)
議 題

- I. 第489回理事会議事要録の承認、第490回理事会議事要録の確認
- II. 協議事項
 1. 会員の入退会について
 2. 各種委員会等について
 3. その他

Ⅲ. 報告事項

1. 日ユ協連の事業報告（2013年5～8月）
2. 後援・共催事業
3. その他

第492回理事会

日時 2013年11月19日（土）12：30～15：00

場所 東京都・大手町サンスカイルーム（B室）

議長 会長 松田 昌士

出席者 20名（理事総数28名）

議題

I. 第491回理事会議事要録の承認

II. 協議事項

1. 会員の入退会について
2. 各種委員会等について
3. その他

Ⅲ. 報告事項

1. 2013年度9-10月の事業報告および今後の日程(案)
2. 中間決算
3. 後援・共催事業
4. その他

第493回理事会

日時 2014年1月18日（土）12：30～15：00

場所 東京都・大手町サンスカイルーム（B室）

議長 会長 松田 昌士

出席者 23名（理事総数28名）

I. 第492回理事会議事要録の承認

II. 協議事項

1. 会員の入退会について
2. 各種委員会等について
3. 2014年度事業計画及び予算の骨子（案）
4. その他

Ⅲ. 報告事項

1. 2013年度11-12月の事業報告および今後の日程(案)
2. 後援・共催事業
3. その他

第494回理事会

日 時 2014年3月15日（土）15：00～18：00
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（B室）
議 長 会長 松田 昌士
出席者 22名（理事総数28名）

I. 第493回理事会議事要録の承認

II. 協議事項

1. 会員の入退会について
2. 各種委員会等について
3. 2014年度事業計画及び予算（案）
4. その他

III. 報告事項

1. 2014年度1-2月の事業報告および今後の日程(案)
2. 後援・共催事業
3. その他

3. 評議員会

第30回評議員会

日 時 2013年5月25日（土）15：15～17：30
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（A室）
議 長 会長 松田 昌士

出席者 構成団体会員 42名
維持会員 4名
個人会員 14名
賛助団体会員 2名
青年代表 3名
ユネスコ国内委員 5名
出席者計 115名
委任状 45通

議 題

1. 第29回評議員会議事要録の承認
2. 日ユ協連の事業報告（2013年1月～5月）
3. 2013年度事業計画書・予算書
4. 民間ユネスコ運動の今後の発展に向けて
5. その他
6. 理事・評議員情報交換会

第31回評議員会

日 時 2013年11月9日（土）15：15～17：30
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（A室）

議 長 会長 松田 昌士

出席者 構成団体会員 51名
維持会員 5名
個人会員 15名
賛助団体会員 2名
青年代表 7名
ユネスコ国内委員 5名
理事 1名
出席者計 81名
委任状 42通

議 題

1. 第30回評議員会議事要録の承認
2. 日ユ協連の事業報告（2013年6月～11月）
3. 各種委員会等からの報告
4. その他
5. 理事・評議員情報交換会

第32回評議員会

日 時 2014年1月18日（土）15：15～17：30
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（A室）

議 長 会長 松田 昌士

出席者 構成団体会員 47名
維持会員 4名
個人会員 23名
賛助団体会員 3名
青年代表 7名
ユネスコ国内委員 5名
理事 1名
出席者計 90名
委任状 33通

議 題

1. 第31回評議員会議事要録の承認
2. 2013年度10月から12月までの事業報告及び今後の日程(案)について
3. 各種委員会等からの報告
4. その他
5. 理事・評議員情報交換会

4. 各種委員会等

(1) 女性を起点に未来を拓く委員会（女性未来委員会）

- 委員長 加藤玲子（副会長）
副委員長 引地瑠美子（理事）
委員 坂口一美（理事）、荘司幸子（理事） 中村優子（理事）、林美紀子（理事）、
鈴木佑司（理事）、野田智義（理事）、川上千春（評議員）
審議内容 連盟が時代の要請に応えつつそのパワーをフルに発揮していくためには、
連盟が内に秘めた女子力をいかに発揮していくことが必要である。上
記の観点から課題を集中的に検討し、活動に対する課題や問題点をまとめ、
提案する。
開催 2013年10月11日、11月9日、12月16日、2014年1月17日、2月17日

(2) 財務戦略委員会

- 委員長代理 間瀬雅晴（理事）
委員 濱松敏廣（評議員）、寺尾明人（評議員）
審議内容 「事業財務改善3ヵ年計画」を踏まえ、連盟の財務基盤の安定化を図るため
に、財務の成長戦略を立てる。その際、新規のソーシャル・ビジネスや、企
業・NPOとの協働などについて検討し、提案する。
開催 2013年7月9日、7月16日、7月22日、8月2日、8月19日、8月27日、
9月4日、9月24日、10月1日、10月16日、11月1日、11月19日、11月25日、
12月3日、12月11日、12月17日、12月24日、2014年1月7日、1月15日、
1月28日、2月5日、2月12日、2月18日、2月24日、3月12日

(3) 青少年・ボランティア委員会

- 委員長 松波孝之（理事）
委員 安達仁美（理事）、岡田 茂（理事）、石川郁香（評議員）、
石川 航（評議員・全国的青年組織副会長）、吉崎晴子（評議員）
審議内容 民間ユネスコ運動が今後一層の発展を期するためには、ボランティアを結集し、
事業への参加者を質的・量的に充実してゆくことが必要である。そのため
には、社会が解決を求める課題に積極的に取り組み、市民が関心と意欲をも
って参加するような仕組みの構成を目指す。特に、次世代を背負って立つ青少
年については、2013年3月答申された「青少年支援ワーキング・グループ」
の構想を充実・発展させるとともに、本年度から実施する「ESD パスポート」
を推進する。また、ユネスコスクールとの効果的な連携を探求する。広く市
民・青少年たちに呼びかけ、ユネスコ運動に巻き込むための推進策をまとめ、
提案する。
開催 2013年9月7日、10月20日、11月10日、12月14日、
2014年1月26日、2月22日

(4) ユネスコスクール部会

- 部会長 米田伸次（理事）
- 委員 大津和子（理事）、小林亮（評議員）、吉崎晴子（評議員）
永井壽子（四街道市ユネスコ協会理事）
- 審議内容 「ユネスコスクール 10 の質問」の続編として、ユネスコ協会とユネスコスクールが連携した ESD 推進についての「手引き」をユ協会員向けに作成し、2014 年度のブロック活動研究会の冊子として活用する。
- 開催 2013 年 9 月 5 日、9 月 27 日、11 月 9 日、12 月 13 日、2014 年 1 月 19 日

(5) ガバナンスとコンプライアンスのためのワーキングチーム

- 座長 鈴木佑司（理事）
- メンバー 石田喬也（評議員）、小出寛治（評議員）、二瓶和敏（理事）
横田 創（理事）
- 審議内容 当連盟は 2011 年 4 月 1 日に定款の改正によって公益社団法人となった。民間ユネスコ運動を行うことによって、公益の増進と活力ある社会の実現に資することに努め、いやしくも社会の非難をこうむることのないよう、連盟の規程やルールを見直し、ガバナンスとコンプライアンスの適正を期することを提案する。
- 開催 2013 年 10 月 21 日、11 月 25 日、12 月 16 日、2014 年 1 月 10 日

(6) 「世界遺産年報 2013」アドバイザーグループ

- 日 時 2013 年 7 月 25 日
- 場 所 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 会議室（東京都渋谷区）
- 委嘱事項 「世界遺産年報 2014」出版に関わる専門的立場からの監修、助言
- 座長 西村幸夫（日ユ協連顧問、東京大学先端科学技術研究センター教授）
- メンバー 稲葉信子（日本イコモス国内委員会、筑波大学大学院人間総合科学研究科教授）
岡田保良（日本イコモス国内委員会、国土舘大学教授、イラク古代文化研究所所長）
矢野和之（日本イコモス国内委員会事務局長、株式会社文化財保存計画協会代表取締役）
吉田正人（IUCN 日本委員会会長、筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授）
米田久美子（財団法人自然環境研究センター研究主幹）

(7) 青少年ユネスコ活動助成審査会

日 時 2013年6月1日(持ち回り)

委嘱事項 青少年ユネスコ活動助成の申請事業について、申請書類をもとに助成交付の可否及び助成交付金額の決定

委 員 野口 昇 (理事長)
加藤玲子 (副会長)
内田眞朗 (専務理事・事務局長)
小出寛治 (評議員)
高見裕一 (理事)

(8) 未来遺産委員会

日 時 2013年12月3日

場 所 東京大学 (東京都文京区)

委嘱事項 「プロジェクト未来遺産」の選考、調査協力、広報協力

委員長 西村幸夫 (日ユ協連顧問、東京大学先端科学技術研究センター教授)

委 員 秋道智彌 (総合地球環境学研究所副所長・教授)
内田眞朗 (日本ユネスコ協会連盟連専務理事・事務局長)
古谷堯彦 (大分合同新聞社 常務取締役営業部長)
佐野賢治 (神奈川大学日本常民文化研究所所長)
七野俊彦 (トヨタ自動車(株)レクサス国内営業部部長)
銭谷眞美 (東京国立博物館館長)
土屋 誠 (琉球大学理学部海洋自然科学科教授)
中塚健也 (日本電信電話株式会社総務部長)
西山 厚 (奈良国立博物館学芸部長)
西山徳明 (北海道大学観光学高等研究センター教授)
朴 恵淑 (三重大学人文学部教授)
前田耕作 (文化遺産国際協力コンソーシアム客員研究員、アフガニスタン文化研究所所長)
原口 幸 (東日本旅客鉄道株式会社常務取締役営業部長)
宮廻正明 (東京藝術大学大学院美術研究科教授)
矢野和之 (日本イコモス国内委員会事務局長)
鷺谷いづみ (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)